小児難治性中耳炎の治療におけるTebipenem pivoxilと高用量cefditoren pivoxilの検討

鈴木元彦[1)]　宮本直哉[1,2)]　村上信五[1)]

1）名古屋市立大学大学院　医学研究科　耳鼻咽喉・頭頸部外科

2）宮本ファミリー耳鼻科

【はじめに】Cefditoren pivoxil1（CDTR-PI）の高用量投与は「小児急性中耳炎診療ガイドライン」において中等症の第二次選択薬，重症例での第一次選択薬の一つに組み込まれている．また世界で初めて経口カルバペネム系抗菌薬としてTebipenem pivoxil（TBPM-PI）が開発され，小児の肺炎，中耳炎および副鼻腔炎に対して認可された．TBPM-PIは幅広い抗菌スペクトラムを有し，強い抗菌力をもつ．そこで今回，TBPM-PIの小児難治性中耳炎に対する有用性を検討するために，TBPM-PIと高用量CDTR-PIの比較試験を行った．

【対象及び方法】「小児急性中耳炎診療ガイドライン」における中東症以上の急性中耳炎のうち，反復例，既往例，遷延例を対象とし，TBPM-PIもしくは高用量CDTR-PI群を投与して，その有効性を比較検討した．

【結果及び考察】TBPM-PI群は13例中，著効7例，有効5例，やや有効1例，無効0例で，著効率54%，有効率92%であった．またCDTR-PI群は12例中，著効4例，有効6例，やや有効1例，無効1例で，著効33%，有効率83%で，著効率，有効率ともにややTBPM-PI群の方が高かった．以上の結果より，TBPM-PIがCDTR-PIと比較して同等もしくはそれ以上に有効である可能性が示唆された．また，TBPM-PI群で有効性を示さなかった1例はPISPとBLNARの混合感染で，CDTR-PI群で有効性を示さなかった症例はPISPとBLNARの混合感染1例とMoracella catarrhalisの単独菌感染1例であった．

【まとめ】小児難治性中耳炎に対する治療としてTBPM-PI内服が一手段となる可能性が示された．